

IV COP10での提言活動

1 COP10生物多様性交流フェア ブース展示

■期 間 平成22年10月18日（月）～29日（金）

■場 所 名古屋 白鳥公園内

■来訪者 約10,000人

■実施状況

人と自然の博物館、兵庫県、APNセンターと合同で、生物多様性交流フェアのブースに出展し、（財）ひょうご環境創造協会では、生物多様性Hyogo市民宣言のパネルの展示と説明と配布を行った。ブースでは、他府県の方から「兵庫は、団体や行政と一緒に宣言をつくるなんてがんばっているね」という声もいただくなど、生物多様性Hyogo市民宣言について広く知っていただくことができた。また他の団体のブースでも生物多様性Hyogo市民宣言の配布の協力をいただくことができた。

また期間中、COP10の様子を広く伝えるべく、協会職員がCOP10会場周辺の様子を名古屋からブログで発信し、多くの方にご覧いただくことができた。

(<http://blog.goo.ne.jp/cbd2010>)



2 COP10サイドイベント等でのPR

<サイドイベントでのPR>

■日 時 平成22年10月25日（月）

■場 所 名古屋国際会議場 211

■内 容

モンゴル森林再生事業のPR、及び生物多様性Hyogo市民宣言のPR

■参加者 60名





＜生物多様性交流フォーラムでのPR＞

■日 時 平成22年10月24日（日）

■場 所 名古屋学院大学

■内 容

兵庫県主催フォーラムの中で「NGO・NPOによるHyogoからの提言」と題したプレゼンテーションを行い、市民宣言のPRを行った。

■参加者 50名



V 資料集

1 生物多様性Hyogo市民宣言リーフレット





生物多様性 ひょうご Hyogo 市民宣言

私たちは未来に向けて・・・



1 県民560万の心を生物多様性につなげます（知る・伝える）

日本海から瀬戸内海・太平洋まで、森・川・海・丸め池・里地・里山など、自然豊かな兵庫。でも、

震災や水害から自然の脅威と畏敬を学んだ兵庫。でも、自然とのつきあい方、自然のありがたさを私たちは忘れてしまったかもしれません。

色んな世代/色んな人がそれぞれ「生物多様性ってこれだ!」と、ピンとくるように、あらゆる人々の心の中に「生物多様性って命のつながりなんだ」という意識を育んでいきます。

Action Plan

- ①身近な生き物の名前を覚えたり、生き物の姿を観察したりしてみましょう。
- ②森や川や海、丸め池や里山などに行って、自然と触れ合ってみましょう。
- ③海の幸、山の幸など自然の命をいただき、自然の恵みに感謝しましょう。
- ④色々な種類、数多くの生き物を探してみましょう。また、それぞれのつながりを考えてみましょう。

2 生物多様性を受け継いで、次世代につなげます（育てる）

生き物に触れて楽しいと思う機会が大切です。多様な生きもの、多様な命、多様な生き方などに触れて、遊び、学び、考えることが出来る環境や仕組みづくりをすすめましょう。

地域の自然、野生の生き物が教えてくれることはたくさんあります。そんな素敵な体験ができる、自然環境をこれからも受け継ぎたい。

身近な自然に触れ合う機会を増やす教育を進めて、自然と戯れる子どもたち、次世代を担う子どもたちを育て育み、わたしたちの生物多様性を託していきます。

Action Plan

- ①自然体験や環境教育に取り組む学校や先生、地域の人々を応援しましょう。
- ②自然遊びを伝えたり、ガイドブックをつくったりしましょう。
- ③地域での環境イベントや、農業体験、都市と農村部の交流会などに参加してみましょう。
- ④学校給食や地域のイベントをとおして、命のつながりや食べ物の大切さを伝える食育を行いましょう。

3 生命（いのち）育む森・川・海・里・まち、その住人と命をつなげます（行動する）

森・川・海など豊かな恵みと命を与えてくれる自然を守り、育み、わたしたちのふる里、まちを再生していきましょう。

兵庫の住人と自然の関わりが育んだ智慧と文化を伝えたり、コウノトリからメダカまで、スナメリからイカナゴまで、兵庫の生きもの応援団を結成したり・・・

色んなアイデアで、生き物の宝庫である兵庫、生態系のつながる兵庫で、その住人と生物多様性、自然との関わりを守っていきます。



Action Plan

- ①「コウノトリ育むお米」など、地域の生態系に配慮してつくられ、獲られたものを食べましょう。
- ②兵庫の自然になじんで育つ、地域特性を活かしてつくられた物や身近で育てられた農作物を食べましょう。（地産地消）
- ③里山の手入れや、植樹、川や海のごみ拾いなどの保全活動に参加してみましょう。
- ④自然の恵みや自然との関わりの中で発展してきた文化について、知っていること、調べたことなど、色んな知識や経験を交流していきましょう。

2 生物多様性Hyogo市民宣言への賛同 メッセージ

【10代】

- ・自然があるからこそ、私たち「人」がいて動物がいて、つながりをもっています。
- ・私が住んでいる町は豊かさから、世界のことに気付かないこともある。でも、世界ではなくなっているものもあるんだと思いました。
- ・兵庫県は、私たちが知らないところで、たくさんの行事などを行っていて、環境を良くしよう！！生物が住みやすい環境を作ってあげよう！！としていたのを知って、とても驚きました。
- ・みんなは自然との付き合い方・自然のありがたみを身にしみついていると思います。兵庫に住む私たちには、色々な自然が目につり、浮かんできます。
- ・兵庫県は環境がいいと初めて聞いて、びっくりしました。これが普通ではないということが残念だけど、これからの日本はまだ環境を取り戻せると思います。
- ・日本が今動かなくては、未来の日本はないと思います。
- ・自分たちが住んでいる地域の生物を大切に、守っていくことは当然だと僕は思う。
- ・『生物多様性』というので、兵庫県市民が一致団結して取り組まなければならないと思った。
- ・木をむやみに切ったり必要以上に自然のものをとったりするのはいけないと思いました。
- ・ご飯を食べる時は、本当に感謝して食べるようにしたいと思いました。
- ・命ある物、全て大切だと改めて思いました。自然を増やすのはいいことだと思います。
- ・コウノトリがずっと棲めるようなとこにしたいと思う。
- ・僕達一人一人が考えて、行動に移すことが大切だと思う。
- ・10年後にはもう1度昔の日本になるように努力していく。
- ・県民の人々はそれだけ自然やそれを生活の場所にしている多くの生物を大切にしているから、そんな活動をもっと盛んにしてほしいし、日本全国に広めてほしいです。
- ・私はこのコウノトリの取り組みを広げてほしいです。なぜかと言うと広めることによってみんなに

知ってもらって、この取り組みに参加してほしいからです。

【60代】

- ・自宅の周りには鹿と猪…電柵と網でその被害を防ごうとしていますが…どちらかと言うと、戦いに負けています。
- ・ウォーキングをしていると場所によってこれまで見かけなかった植物を見ることがあります。
- ・自然はすごい！美しい！ふしぎ！
- ・コウノトリが棲める豊岡のような田畑が県下全域に広がるように！！

【70代】

- ・昆陽池が「ため池百選」に選ばれうれしい限りです。
- ・昆陽池で絶滅危惧種のオニバス、デンジソウを育て、子供達にホタルを育成し、イベントとして昆虫館ヨコの流れに放流しています。

【80代】

- ・人間としての基本的営みを行うことが生物多様性の基本概念と思います。
- ・自然環境を正しく次世代につなげたい。
- ・メダカも草木・猛獣達も生けるもの全てが人間の仲間です。大切な自然を守り後世に美しい地球を残しましょう。
- ・生命の尊さを、常に想い、考えよう。

3 ブログ「ひょうご環境創造協会COP10情報」



4 生物多様性リレーシンポジウム 参加者アンケート結果

参加者270名のうち アンケート回答者68名（男性：48名 女性：20名）

○所属の内訳 NPO・NGO…12 大学・学校関係…13 各種団体…10 企業・事業所…5 行政関係…1 個人…27

○年齢 20歳未満…2 20代…9 30代…4 40代…7 50代…5 60代…23 70代…15 80歳以上…1

○シンポジウムを知ったきっかけ
ダイレクトメール…21 ホームページ…6
メールマガシン…11 新聞…2（神戸1）
その他…28（学校11、チラシ5、パンフレット2、他シンポジウム2、当協会2、知人2、テレビ1、神戸市1、所属1）

○シンポジウム全体について、望む内容でしたか
とてもそう思う…22 そう思う…33 ふつう…5 あまり思わない…2 思わない…0
その他…0

○第1部 特別講演について、役立つ内容でしたか

役立つ内容であった…38 ある程度役立つ内容であった…17
期待していた内容ではなかった…2 まったく期待はずれであった…0
その他…2

○第2部 パネルディスカッションについて、役立つ内容でしたか
役立つ内容であった…31 ある程度役立つ内容であった…23
期待していた内容ではなかった…3 まったく期待はずれであった…1
その他…1

○第3部 COP10報告会について、役立つ内容でしたか
役立つ内容であった…37 ある程度役立つ内容であった…16
期待していた内容ではなかった…1 まったく期待はずれであった…1
その他…0

【理由など】

・ 一番最後に松岡さんが「小さな自然の感動が経済の魔力に勝てるのか？」とおっしゃったのがとても印象に残りました。確かに自分の生活レベルが下がってまで、一つの種を保存すべきかと考え

たときに、僕は保全すべき、とは言えません。

- ・ COP10のいろいろな実情がよく理解できた。
- ・ 生物多様性、自然保護あらゆるキーワードを国民の中に浸透させ、個人でも行政や企業でも（組織的にも）実行していく行動目標を実行していくことが重要だ。
- ・ 生物多様性の重要性の認識ができた。危機感が国民にあるのか？もっと情報を発信すべき！
- ・ 実践行動の内容で良かったです。
- ・ 最早、他人言ではない時代になっており、個人レベルで全地球人が認識し活動すべきことをもっともっとアピールしてゆかねばならないと感じた。
- ・ COP10の様子がいろんな角度からよく分かった。
- ・ 参加できなかったCOP10の会議内容が紹介され、各分野からの発言が参考になった。
- ・ 一般人に何ができるのかわからない。団体に入っていないと意味がない気がした。
- ・ 知っていたつもりでも知らなかった事を学べました。
- ・ 問題がむずかしすぎ納得できなかった。
- ・ COP10の争点、課題、それについての対策についてよくわかりました。ひとえに“前進”を喜びきれない現状、上記の“協力”“連携”が今後の生物多様性保全実現のカギになると思います。
- ・ COP10名古屋に行けなかったので、熱が伝わって来てよかった。
- ・ ESDについて、私は生物多様性がESDの大きなテーマの一つと思っていたので、ESDとのかかわりのお話で、今までそうではなかったと知り、ESDについて思っていた違和感がそこにあったのかとわかってよかったです。
- ・ 時間不足したもの、会場の方からも様々な意見が出て、ある程度の議論ができた。
- ・ 生物多様性は掴み所のない個人行動と思っていましたが、globalにチームワークで推進していくものと思います。いろいろと考えさせていただきました。
- ・ COP10の結果概要がよく理解できた。
- ・ 中島さんの講演は解りやすい解説であった。今の民主党内閣では具体的取り組みは期待薄であるが。
- ・ 松岡氏が話したように、COP10の関係者だけ

が盛り上がり、それ以外の人はさめていた？今後は行政が生物多様性を市民生活と結びつけて広報する必要がある。NPOなどが協力しなければならない

- ・ 生物多様性条約。条約の3つの目的。
- ・ 松岡先生の考え方に共鳴しました。
- ・ COP10が日本で開催され、国民も世界も地球上の生き物と共生が持続した資本となり、平和と生命が守られる。環境政策を公も民も可能を持続する。

○ポスターセッションについて、役立つ内容でしたか
役立つ内容であった…23 ある程度役立つ内容であった…30
期待していた内容ではなかった…1 まったく期待はずれであった…0
その他…1

<自由記入欄>

- ・ 色々な方々の貴重な話が聞けてとても有意義でした。最後のディスカッションでの質問側と回答側の意見が所々違っていた所にとっても考えさせられました。
- ・ 大いに結構です。ポスターセッションも大変良かったです。
- ・ 第3部に出席したが実態は大変だと思った。
- ・ 保育園、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、大学、社会人、それぞれに合った、自然にふれて、実践行動のつながりの教育が必要です。自然再生に六甲山も入ります。
- ・ 参加する機会が得られてラッキーだった。
- ・ 第2部の発表の全てが自然保護活動であったが、COP10の中心議題は生々しい人間社会の問題であり、あまりにへだたりがあると感じた。どうしても入れてほしいのが、栽培作物の「たね」の絶滅スピードは自然種以上であり、直接人間の生命の維持に関わることであり、地域の暮らし、文化に関わることを表面に出してほしい。例えば、地元に残っている在庫の野菜があったら食べよう、そうすれば農家は作ってくれるというようなことを言えば、市民は納得して買うことにより種の多様性が維持できることを実感できると思う。
- ・ 生物多様性条約は温暖化防止条約と双子の条約

である。人間の暮らしが中心なのだからこそ、生物多様性を生命のもとである食べ物の現状から考えていくことが両条約とも必要と思う。

- ・ 多くの参加者が、熱心に一同会し、次の時代（ステップ）の足がかりのスタートと思える。
- ・ 亀崎先生がおっしゃっていた「実践」「検証」という所にもっと力を入れていかないといけないと思いました。行政、団体、学校、家庭、全てにおいて「継続」を念頭においた活動のサポートをお願いします。
- ・ 生物多様性の活動はまだまだかたくりしい感じがした。～しないように、～してはいけない→～していこう。生活レベルで生物多様性を考えていくには、個人の意識とそこにかかわる大きな組織の影響が重要なのかと思った。
- ・ 生物多様性を考えるいい催し物だと思います。またこういうイベントを期待します。
- ・ 日々、人間社会に浸り切った環境から、いかに自然や他の生き物との関わりを増やしていく機会をつくるか、産業も含めその普及の必要性を感じました。1週間7日中せめて1～2日は主婦や老人（平日も活用）、学生、社会人（週末活用など）に巻き込んでいくかということ。また、生活学習として幼稚園、小学校から高校大学までの環境教育を一貫して行うことが次世代の教育に必要と感じます。その上でもまずは教える教師の環境学習と父母の協力が必要かと思います。
- ・ これからの兵庫を考える「私たちができること」を考えるワークショップを道家氏を招いてやってほしい。
- ・ 一人一人の環境への影響、例えばゴミの量、薬の使い方など、そして生産者の影響など考えに取り入れてほしいです。やはり、一人一人の意識だけでCOP10の目標を達せられません。法律、きちんとしたルールをつくってほしいです。洗剤の生産ですと、環境に優しい石鹸だけ許す。環境汚染を減らさないと、いくつか環境を再生しても、保全しても生物多様性は回復しにくいでしょう。
- ・ 今回のプレゼン資料を後日協会のHPで公開して頂ければありがたいのですが。あるいは申し込みがあれば、送って頂くとか。
- ・ NGO/NPOだけでなく企業が参加すると聞いてどんな内容になるか楽しみだったが想像以上に良い内容だった。

- ・ パネルディスカッションは時間が長すぎる。2つにわけて実施しないとダレてしまう。行政部分はまとめて（区切って）やってもらう方が良い。
- ・ 市民団体の生き物の放流（アユ、ホタルなど）が盛んに行われているが、科学的に正しい行事なのか検討する必要があるのではないかな。
- ・ 生物多様性の意識向上のために子供達の自然とのふれあい、自然体験学習など、行われているが小生が感じるところ、学校先生の質のバラツキが大きいように感じる。新しく「学校教育法」が定められたから先生たちの自然への関心を高める研修が必要と考える。
- ・ 海の生物多様性について、もう少し報告があればよいと思う。海や川や山のつながり、生物多様性保全が大切である。学校教育について中学生、高校生への環境教育も大切です。
- ・ シニア世代の人間が気軽に参加できる体験型の活動シンポジウムを計画してもらいたい。
- ・ 地球全体の許容能力キャパシティを考えると人類の人口増加のスピードにブレーキをかけないと無理だと思う。生物多様性を保全するためには現在の先進国と言われる国々の人々の生活レベルを大幅にダウンする必要があると思う。科学技術の進歩で人口が1.5倍になっても全ての人間が幸せに生活できる方法が開発されることを期待するのみです。
- ・ 地球環境、温暖化、生物多様性の問題を常に発信続けてほしい。
- ・ COP10の会議内容を初めて知ること、聞くことが出来ました。
- ・ 第1、2部のフロアからの質問の時間を取って欲しかった。
- ・ 第2部のパネリスト11人のプレゼンでおなかがいっぱいになった。

5 生物多様性連携講座 第5回 参加者アンケート結果

参加者41名　うち　アンケート回答者22名（男性：17名　女性：5名）

所属の内訳　NPO・NGO…6

大学・学校関係…1　各種団体…8

企業・事業所…0　行政関係…3

個人…2

1 今回の講座には、どのようなことを目的に、または、どのようなことを期待して参加されましたか？

- ・ 行政とNPOの連携
- ・ 各分野の意見を聞き、今後の活動に活かしたい
- ・ 「生物多様性」という言葉、または行動をどう伝えるかの目標づくり
- ・ 自然を守る→地球を守る→次世代のために。それには生物を大切にする為に、生物多様性を守ることが大切で、どう生活していくかを考えたかった。
- ・ 第1回の講座から参加しているので
- ・ 生物多様性アピールの方策
- ・ 現在問題とされている生物多様性について（なかなか身近な環境問題としてとらえ難い）もって深く知りたと思って参加した。
- ・ ひょうご戦略がどのように展開されるのか
- ・ 「COP10」の中での生物多様性、SATOYAMAのまとめ
- ・ 人と人の交流の場づくり
- ・ 他団体（参加者）とコンタクトし情報&意見交換したかった。
- ・ 少しでも生物多様性が伝えられる様スキルアップ
- ・ 生物多様性について学習したかった
- ・ 多くの意見を聞き、活動の中に活かしていきたい
- ・ 子どもたちに生物多様性の大切さを伝えるよい方法があるのではと思いました
- ・ 生物多様性を広める手段は？
- ・ 生物多様性をベースに環境学習という点で、色々な分野の方々が、どのような視点を持っているのかを知りたいために参加しました。

2 今回の講座は、生物多様性保全に活動をすすめるうえで、役立つ内容でしたか？

①前半 事業実施状況、来年度事業説明について

役立つ内容であった…12 ある程度役立つ内容であった…8

期待していた内容ではなかった…1 まったく期待はずれであった…0

その他…1

【回答の理由や意見など】

＜役立つ内容であった＞

- ・ 実施するのがうまく行くか不安？
- ・ 多種多様なアイデアを参考に出来ます
- ・ 難しいことはわかりませんが、生き物のいのお互いにつながっていることを大切にしたいということが一番大切なことではないかと思った。

＜ある程度役立つ内容であった＞

- ・ もっと具体的な内容が聞きたかった
- ・ 関係者のネットワークも大事ですが団体やグループのメンバーが生物多様性を実感してもらう実践活動を学びたい
- ・ システムとして、行政・事業者・市民は役割として何を担うべきなのかを明確にするべきだと思う。

＜期待していた内容ではなかった＞

- ・ 説明が表面的、総花的で興味をもてなかった。聴く側の身になって、焦点を絞るなど工夫が欲しい。

②後半 グループディスカッションについて

役立つ内容であった…8 ある程度役立つ内容であった…11

期待していた内容ではなかった…2 まったく期待はずれであった…1

その他…0

【回答の理由や意見など】

＜役立つ内容であった＞

- ・ まとめまで進めることは、できなかったが活発な意見は、それぞれが活動に裏打ちされたもので参考になった。
- ・ いろんな活動をしている人の話や意見は参考になった。
- ・ 切り口は多面で面白かった。

＜ある程度役立つ内容であった＞

- ・ 実際にどれだけ実施できるのか？
- ・ 時間的に短かった。いろんな見方があるなという事が分かった。
- ・ 理論よりも実践活動に話題が集中した。
- ・ 里山に生活する人々に、「生物多様性」を如何に理解してもらうか？小生のあらたな課題だ。

＜期待していた内容ではなかった＞

- ・ 参加者の活動内容がバラバラで、この時間では意見をまとめる事は出来ない。
- ・ 交流に時間をとる方がよい。

3 今回の講座は、生物多様性保全の活動をすすめていくうえで、参加者同士の連携やネットワークづくりを目的のひとつとしていましたが、この趣旨に合致していたと思いますか？

合致していた…6 ある程度合致していた…

13 合致していない…3

わからない…1 その他…0 （複数回答者1名あり）

【回答の理由や意見など】

<合致していた>

- ・ 生物多様性は本来は生命の継続に関わる問題だと思いますが、それを理解していない方が多く、その課題をクリアするためには、ネットワークづくりに絶対に必要なことだと思います。

<ある程度合致していた>

- ・ 生物多様性で活動している団体を一覧表で紹介し、その中から普段活動していることについて発表してもらおうかどうか
- ・ 意見をまとめるには時間がなかった

<合致していない>

- ・ ワークショップを行ったが短時間でネットワークづくりまでには至らなかった。
- ・ 意見が出来が、それをまとめる時間がない。
- ・ 他参加者の活動情報がほとんどない。情報を得る時間が少ない。名札も名前のみ。所属団体さえも明示されていない。

4 他の団体等（NPO、個人、企業、行政等）との連携・協働をすすめるうえで難しいと思うこと、または弊害となっていると思うことなどがあればお書きください。

- ・ 話す機会が少ない、（活動内容等）交流
- ・ 時間や場所の設定がむずかしいと思います
- ・ 各地域の正しい情報の発信と入手の難しさ。県内での総合的なネットワークづくり／距離感、テーマの多様性
- ・ 生物多様性に対して熱心な人々（環境オタク）と無関心な人々（一般市民）の2極化が進んでいることがわかった。この2極化が弊害である。
- ・ 一般の人の理解が不十分なため大変難しい。本日のグループでは可能であるが何でこんなことをするのかの本質にせまれない。
- ・ 地域交流・世代交流がまず最初

- ・ 行政が仲介すると良いと思う
- ・ 他団体の内容がわからないので、なかなか話し合いの場が出来ない。

・ 今後の活動の中心は県？創造協会？

- ・ （考え方だと思います）「連携・協働」とイメージすると、“自己主張ができなくなる”と思いがち。それぞれの活動家達は自己アピールしたいものです。でも、本来のパートナーシップやネットワークは混ざり合うのではなく、可能な分野を個々に受け持つものだと思います。そこを大切にすればもっと進むのでは…

- ・ 県下でどういうグループがどんな活動をしているか、参画するためには、どのようにアクセスしたらよいか、等の行動に移すためのノウハウをわかりやすくする必要があります。

5 生物多様性保全に向けた、NPO、市民、企業、行政等との協働・連携・ネットワークづくりに、効果的な方法や提案があればお書きください。

- ・ 町の自治会とその地域の学校（小、中）と協同テーマ（生物に関した）を行事として行うのもよい。
- ・ 地域の相互交流による課題の明確化あるいは共有
- ・ 生物多様性保全に向けた考え方の多様化を認め合うことが効果的であると思う。
- ・ 制限がいろいろあって困難。生活の基盤がしっかりしておらなければ言うばかりで実があがらない
- ・ ネットワークづくりは行政ものり出して進んで来た。もっと各組織が実践活動に熱心であるべきです。
- ・ A：それぞれの団体の情報を流す場が欲しい。
B：ある程度、環境問題に対して活動しているので、交流は難しい。
- ・ 機会（チャンス）が多くあれば、尚一層深まると思う
- ・ イベントをやって、お互いの協働を実体験してみること
- ・ 回数が必要だと思います
- ・ 冊子にまとめていただいて公開（自分達で連絡を取り合える仕組み）、又はコーディネート
- ・ コミュニケーション
- ・ 教えて下さい…

6 その他、今回の講座へのご意見、ご感想など、ご自由にお書きください。

- ・ 「市民宣言」一つのものを作ることは大変だと思います。多くの人に「その気」になってもらうよう、できることをしていきたいです。
- ・ 時間が少ない。事前に考えてくることを参加者に連絡しておくのがよいのでは
- ・ 誤った情報と正しい情報を明らかにする機会を設けて欲しい
- ・ 付議を重ねることが大切だがいろいろな条件があり思うように集合することすらできないもどかしさが頭から離れない。
- ・ 有意義でした
- ・ 参加者のレベルが、バラバラなのが良いのか、同じ程度の人達との話し合いの場が良いのか、難しいですね。でも、このような機会は、是非共、必要と思います。
- ・ ①講座時間を長くする。前半は座学。後半は活動発表など。②里山や里海、里川に生活圏を持つ人や企業人の意見を聴きたい。「街の人」のみでは実のある議論にならない。
- ・ あとの懇親会が良い。アルコールがあればもっと良い。（とにかく、会議の後の飲食の機会は、メンバー間の人間同士のつながりを太くします）
- ・ 楽しかったです。又、参加したいです。

COP10に向けたNGO・NPOのネットワーク強化・提言事業

～生物多様性を考えるNGO・NPO、市民のHyogo対話～

事業実施報告書

2011年3月発行

【編集・発行】

財団法人ひょうご環境創造協会 環境創造部環境創造課

〒654-0037 神戸市須磨区行平町3-1-31

TEL : 078-735-2738 FAX : 078-735-2292

URL [http : //www.eco-hyogo.jp](http://www.eco-hyogo.jp)